

2017. 8. 5 **GEWONPHALUS** 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

生誕450年 **モンテヴェルディ** “夏に聴くバロック音楽”
没後250年 **テレマン**

プログラム

今日は今年、イタリアのモンテヴェルディが生誕450年、ドイツのテレマンが没後250年という二人のバロック音楽の巨匠のアニヴァーサリーイヤーに当たります。そこで今日はこの二人とモンテヴェルディに影響を受けたと言われる大バッハを加えたバロック音楽特集をお送りします。

音楽史の上で1550年から1750年頃までをバロック時代と呼んでいます。その前に位置するルネサンス時代の音楽は、複数の独立した声部からなるポリフォニー技法によるミサ、モテットなどの宗教曲や合唱曲が中心でした。これに対してバロック音楽は、通奏低音を用いて低音の旋律線を浮き立たせたり、内声部の和声を充実させたりと、音楽の多様性を推進させ、オペラ、声楽、器楽などあらゆる分野で新たな形式を生み出して行きました。このルネサンス期からバロック期への大転換の橋渡しを成し遂げたのがモンテヴェルディです。新たに確立したバロック様式によるマドリガーレ（イタリア発祥の歌曲形式）と、複雑な構成を持ちながら多様な作曲技法を持った傑作、「聖母マリアの夕べの祈り」をお聴きください。テレマンは当時最も高い人気と名声を誇っていた作曲家で、あらゆるジャンルに膨大な作品を残しました。貴族や市民の宴席で演奏するための音楽が「ターフェルムジーク」で、明快で優雅な曲想を持った代表作です。セルバンテスの有名な小説に基づく管弦楽組曲も生き生きとした躍動感に満ちた名曲です。 (中川)

クラウティオ・モンテヴェルディ (1567~1643):

マドリガーレ曲集第7巻～眠りたもうや

マドリガーレ曲集第8巻第2部“愛の歌”～ニンフの嘆き「太陽がまだ世界に昼を」

マドリガーレ曲集第8巻第1部“戦いの歌”～人々は愛の神の…

マウリツィオ・ポリーニ(チェンバロ)/サルツブルク・カメラータ・アカデミカ
モニカ・バチエリ(ソプラノ)/サラ・ミニヤルド(ソプラノ)/マリオ・チエケツティ(テノール)
ベマデッテ・マンカ・ディ・ニツサ(アルト)/アントニオ・アベーテ(バリトン)他
(1999.8.26 サルツブルク、モーツァルテウム大ホールでのLive)

“聖母マリアの夕べの祈り”～「主は言われた」/「聖マリアの歌」/「マニフィカト」から

片野坂栄子(ソプラノ)/中村邦子(ソプラノ)/戸田敏子(アルト)/藤沼昭彦(テノール)
中村健(テノール)/大橋国一(バリトン)/高橋修一(バリトン)/東京混声合唱団/二期会合唱団
ロヴロ・フォン・マタチツチ指揮NHK交響楽団/日本合唱協会/東京少年少女合唱隊
(1967.12.5 東京文化会館大ホールでのLive)

ゲオルク・フィリップ・テレマン (1681~1767):

フルートとヴァイオリンのための協奏曲ニ短調

カースティン・ハイマン(ヴァイオリン)
クルト・レーデル(フルートと指揮)ミュンヘン・プロアルテ室内管弦楽団
(1974.9.26 アスコーナ、コレジオ・パピオ教会でのLive)

*** 休憩 ***

“ターフェルムジーク(食卓の音楽)” 第1集～

四重奏曲ト長調(フルート、オーボエ、ヴァイオリンと通奏低音のための)

有田正広(フルート)/東京バッハ・モーツァルト・オーケストラのメンバー

終曲ホ短調(二つのフルート、弦楽合奏と通奏低音のための)

有田正広(フルートと指揮)/朝倉未来良(フルート)/東京バッハ・モーツァルト・オーケストラ
(1993.10.28 浜離宮朝日ホールでのLive)

管弦楽組曲ト長調「ドン・キホーテ」～序曲/ドゥルシネア姫に寄せる愛のためいき/

サンチョ・パンサのロバのギャロップ/眠りにつくドン・キホーテ

ルドルフ・パウムガルトナー指揮ルツェルン弦楽合奏団
(1976.8.19 ルツェルン、芸術の家大ホールでのLive (DENON CD盤))

ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1750) (マーラー編曲):

管弦楽組曲第2番ロ短調BWV.1067～序曲/ロンド/パティネリ

管弦楽組曲第3番ニ長調BWV.1068～アリア/ガヴォット

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団/カール・ハインツ・ツェラー(フルート)
(1984.6.15 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)